

大阪府議会議長 様

「今後の児童生徒数の増加」に見合った 府立支援学校の新校整備を求める請願

【請願趣旨】

2020年10月、大阪府は、2018年に発表した基本方針の見直しをおこない、「知的障がいのある児童生徒等の教育環境に関する基本方針」を発表しました。その中で、府立支援学校における知的障がいのある児童生徒の将来推計の再推計は、前回値を上回る1,590人増（約200人増加）となる結果が報告されました。しかし、大阪府は、2024年度開校予定の西淀川における新校整備以外の学校建設の具体的な方策は全く示しておらず、府立知的障がい支援学校の「過大・過密」の解消どころか、今後の児童生徒数の増加見込みに全く見合っておりません。さらに、2020年度から府内3地域の通学区域割を変更し、児童生徒にさらなる長時間通学を強要していることも問題です。

大阪の知的障がい支援学校の「過大・過密」は全国的に見ても異常で、普通教室不足や特別教室の普通教室への転用、カーテンによる「間仕切り教室」、通学バスで60分を超える長時間通学など、子どもたちの教育条件は極めて劣悪な実態にあります（裏面参照）。

また、新型コロナウイルスの感染拡大によって、府立支援学校における児童生徒の「詰め込み」教室や「過密」状態の通学バスでの長時間通学への不安が高まり、「過大・過密」解消の要求はさらに強まっています。

一方で、文部科学省は、2024年度までの期間を「支援学校整備等のための集中取組期間」とし、学校建設に対する国庫補助の増額を打ち出しています。そして、2021年5月、私たちの長年の要求と運動を受けて、文部科学省が極めて不十分な内容ながら特別支援学校の必要最低限の設備を示す「設置基準案」を初めて公表しました。このような状況を踏まえ、特別支援学校を設置する義務を負う大阪府においては独自の対策を講じることが求められます。

以上のことから、私たちは府立支援学校の「過大・過密」を解消するためには、支援学校の抜本的増設が必要だと考えています。当面、今後の児童生徒数の増加に見合った学校建設を実現するために、以下の事項を請願します。

【請願事項】

- 「今後の児童生徒数の増加」に見合った府立支援学校の新校整備を早急に具体化してください。

お名前	ご住所

※家族署名などの場合、名前（姓）や住所を「 // 」のように省略せずに記入してください

【取り扱い団体】大阪の障害児教育をよくする会、大阪障害児・者を守る会、障害者(児)を守る全大阪連絡協議会、全国障害者問題研究会大阪支部

【連絡先】大阪市天王寺区東高津町7-11 大阪府教育会館704号 TEL: 06-6765-8904
大阪府立障害児学校教職員組合内 大阪の障害児教育をよくする会事務局

みなさん、ご存知ですか？ 支援学校の劣悪な実態！

障がいのある子どもたちに 当たり前前の教育条件整備を

普通教室が足りないため、1つの教室をカーテンで仕切る
「間仕切り教室」で授業をする場面も…



普通教室が足りないため、
倉庫や教材室で授業をする場面も…



他にも、教室が足りず深刻な実態が…

- やむをえず本を倉庫にしまい、さまざまな授業で使う多目的室化した「図書室」
- 教室確保のために玄関ホールを改修した学校も！
- 廊下で授業をしている学校も！

新型コロナの流行により、支援学校の「過大・過密」解消の要求は強まっています！

【学校に寄せられる父母の声】

- ◎ 「密」な状態の通学バスで、毎日長時間通学をさせるのは不安です。居住地の近くに学校を建ててほしい！



- ◎ もともと「過密」の教室で、どうやって密を避けるの？
- ◎ マスクの苦手なうちの子が、感染源にならないか心配です……。



大阪の知的障がい支援学校の児童生徒は、2026年度までに

1590人※ 増えます！

※前回推計より約200人増
(2020年10月府教委再推計による)

☆2023年度開校予定として、旧西淀川高等学校校舎を利用した知的障がい支援学校1校（200～300人程度）のみが具体化されました。しかし、老朽化した校舎の改修等のため、開校は2024年度に延期となりました。

大阪府の「基本方針」では、全く対応できません！

「今後の児童生徒数の増加」に見合った
府立支援学校の新校整備を求める署名に

ご協力をお願いします!!

★支援学級在籍の
子どもたちも
増え続けています！